

令和7年度 第1回東海村環境審議会

■日時：2025年8月6日（水） 14:00～16:00

■会場：東海村役場5階 原子力視察研修室

■出席者

委員

| No. | 委嘱区分 | 役職等 | 氏名 | 備考 |
|-----|--------------------|---|--------|----|
| 1 | 学識経験者 | 茨城大学名誉教授 | 小林 久 | |
| 2 | | 茨城生物の会 副会長 歴史と未来の交流館 博物館長 | 安嶋 隆 | |
| 3 | | 東海村教育委員会生涯学習課青少年担当 理科活動専門員 | 安 敦之 | 欠席 |
| 4 | 地域代表 及び 各種団体 | 株式会社東海クリーン 代表取締役 茨城県地球温暖化防止推進委員 | 沼田 元良 | |
| 5 | | 株式会社クリハラント 東京本社営業部 北関東支社 支社長 | 藤田 明英 | |
| 6 | | 株式会社ビーンズグリーンサービス 代表取締役社長 東海村環境整備事業協会 会長 | 川崎 敏秀 | |
| 7 | | とうかい環境村民会議 会長 | 久保田 昌宏 | |
| 8 | | 自然のみどりを守る会 会長 | 齋藤 由美子 | |
| 9 | | 東海村農業委員会 会長 | 宮本 甚吉 | |
| 10 | | 東海村食生活改善推進員連絡協議会 会長 | 石丸 美代子 | |

事務局

| 役職 | 氏名 |
|--------------|------|
| 村民生活部長 | 池田洋平 |
| 環境政策課 環境政策課長 | 関田砂織 |
| 環境政策課 課長補佐 | 井澤良則 |
| 環境政策課 | 坂場郁哉 |
| 環境政策課 | 井坂駿佑 |

委託事業者（国際航業株式会社）

| 役職 | 氏名 |
|---------------------|------|
| 河川海洋部 調査グループ 主任技師 | 深田雅彦 |
| カーボンニュートラル推進部 グループ長 | 直井隆行 |
| カーボンニュートラル推進部 技師 | 香川裕紀 |
| 河川海洋部 調査グループ 主任技師 | 三浦雄太 |
| 水戸営業所 | 池田英助 |

■次第

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 村民生活部長あいさつ
- 4 議事
 - (1) 計画策定スケジュールと各会議の目的 【資料1】
 - (2) 前回審議会の振り返り 【資料2】
 - (3) 計画素案の要点について 【資料3】【資料4】
 - 資料1 全体スケジュールと各会議の目的
 - 資料2 前回審議会の振り返り
 - 資料3 第4次東海村環境基本計画素案の要点
 - 資料4 第4次東海村環境基本計画素案
 - 資料5 第3次東海村環境基本計画シンボル指標実績値（令和6年度）
 - 資料6 第3次東海村環境基本計画施策体系表（令和6年度）
- 5 その他
- 6 閉会

■議事録

| | |
|--|--|
| 1. 開会 | |
| 2. 会長あいさつ | |
| <p>小林久会長より、以下のあいさつを賜った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年の夏は過去を上回る暑さであったが、今年は更に暑くなることが想定され、「気候変動」という言葉も「気候危機」と表現されるようになっている。 ・ 気候危機を踏まえた環境基本計画を議論することから、今までの発想だけでなく、未来を見据えた視点で、活発な議論をいただきたい。 | |
| 3. 村民生活部長あいさつ | |
| <p>村民生活部長より、以下の旨のあいさつを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 気候危機による激甚化・頻発化する自然災害への対応として、7月25日に自然災害による災害廃棄物の収集運搬・処理について、沼田委員、川崎委員をはじめとした村内の廃棄物の収集運搬処理に関わる関係事業者様のご理解とご協力を受け、県内でも初めての協定を締結した。これにより、災害時における村民の生活環境の円滑な復活や、生物・国土の多様性維持に資するものと考えている。 ・ 第4次環境基本計画は、今年度はより具体的な内容に落とし込むため、庁内関係部局とのヒアリングを実施し、施策や連携の在り方について意見交換を行ってきた。 ・ 本日は、第4次環境基本計画素案に対して幅広い意見を頂戴し、多様な主体との連携や地域の実情に即した実効性のある計画の策定に向けご議論をお願いしたい。 | |
| 4. 議事（シナリオ参照：2つの内容を参照） | |
| <p>第4次環境基本計画の策定に向けての説明として、事務局より以下の説明を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度、計画骨子の作成及び再生可能エネルギー導入目標の策定を実施した。 ・ 今年度は、施策検討のための関連部署を対象とした庁内ヒアリングを実施し、その結果を反映した計画素案を作成した。 ・ 地球温暖化対策実行計画（区域施策編）と気候変動適応計画を包含した内容や、先だって開催した環境基本計画推進委員会の意見を踏まえ、計画全体の構成や体系、方向性の部分についてご意見をいただきたい。 | |
| 資料1、2について | |
| <p>委託事業者より、「全体スケジュールと各会議の目的」及び「前回審議会の振り返り」を行い、質疑応答・意見交換を行った。【資料1、2】</p> | |
| | 委員からの発言は特になし |
| 資料3、4について | |
| <p>委託事業者より、第4次東海村環境基本計画素案について説明し、質疑応答・意見交換を行った。【資料3、資料4】</p> | |
| 委員 | <p>近年、空き家が村内で増えている。東海村は原子力で栄え、企業向けに家を貸したが、現状ゴミ屋敷になっていることが多い。企業に対する管理ができないため、放置されていると感じているが、環境基本計画の中に空き</p> |

| | |
|-----|--|
| | 家問題は含まれるのか。 |
| 委員 | 現状把握として理解しておくべき内容であり、緑のネットワークにもつながると思うが、事務局のお考えをお教えいただきたい。 |
| 事務局 | 空き家に関しては緑のネットワークといった視点の考え方もあるが、空き家というスポット的なものだと、建設部の方で空き家対策計画がある。 |
| 委員 | 現状の課題として入れてもよいのではないかと。OECMの事例では、住宅の緑を活かすものもあるため、現状として入れてよいと考える。景観や緑のネットワークの観点で関連するのではないかと。 |
| 事務局 | 他自治体では景観形成の側面から、環境基本計画に入れている事例も多々ある。 |
| 委員 | 庁内の担当があるかもしれないが、現状認識として入れ込んでもよいのではないかと。 |
| 事務局 | 現行計画の中では、生活環境のところで記載している。 |
| 委員 | もし可能であれば、現状認識の部分で空き家の情報を入れてほしい。コラムでもよい。生活空間としても課題があることを入れた方がよい。 |
| 委員 | 近所の空き家は、雑草・竹・雑木が生え、そこにごみを捨てる人がいる。緑というより、生活環境の課題として入れていただきたい。 |
| 委員 | 東海村の現状として、入れていただきたい。 |
| 委員 | P38の緑地率について、前回のデータで整理されているが、現状どうなっているか。山林が宅地になっているところもある。データの出し方はどうなっているか。 |
| 事務局 | 令和6年1月1日時点で税務課が所有している農地・山林の統計データから算定している。 |
| 委員 | p.38、39の多様な生き物に関して、10年ほど前に生物多様性地域戦略を茨城県、東海村でそれぞれ策定し、生物多様性センターも設立しているが、生物多様性地域戦略と環境基本計画はどのような関連性であるのか。また、茨城県が生物多様性地域戦略の改訂を検討中であり、内容も前戦略よりコンパクト化する予定である。村民からすると様々な計画があり、複雑であるが、計画間の体系はどのようなになっているのか。 |
| 事務局 | 東海村も地域戦略を策定しているが、県と同様にスケールが大きい。今回の4次計画では、自然共生の分野と、協働と参画の分野において、地域戦略の理念を取り入れようと考えている。 |
| 委員 | 地域戦略が2つの分野に関わっていることがわかるように、構造などを記載していただきたい。 |
| 委員 | P26からの環境像に突然ウェルビーイングという言葉が出てくる。環境像に記載する前に、ウェルビーイングの内容を記載してほしい。 |
| 事務局 | ウェルビーイングは、国の第六次環境基本計画に基づく考え方である。 |

| | |
|-----|---|
| 委員 | どの分野がどの視点を考慮しているか記載してほしい。 また、現行計画で書いてあった「力を合わせて」という言葉が自然環境の中では含まれていないが、取り込んでほしい。村民の参画・協働を打ち出してほしい。 |
| 事務局 | 次回審議会で示す。 |
| 委員 | 海岸沿いに自然があるが、その活用はどうなったか。事業者に対しては自然を荒廃させないようにとなっていると思うが、少なくとも活用できるようにしていただきたい。 |
| 委員 | 自然は東海村だけではなく、他自治体の自然も貴重である。具体的な生物名を記述した方が東海村ならではの基礎データとして作成してほしい。 |
| 委員 | 村民も知らない方もいると思うので、何かの折に東海村の自然に関する勉強会等の機会を設けてほしい。計画内で触れてもよいと考えている。 |
| 委員 | 以前、イモリが生息しているという看板が東海高校近辺に設置されていた。最初に一生懸命やっても、維持管理が難しく、後が続かない。 |
| 委員 | そこが課題である。 |
| 委員 | 残された貴重な自然を活用していく方向で、計画内で触れていただきたい。単純に増進するのではなく、あるものを活用するという意味合いでよい。 OECMは、計画内で具体的なエリアを指定するのか。 |
| 事務局 | 現時点で候補地があるわけではない。 |
| 委員 | 活動する団体が特定されないといけないため、活動費の補助などメリットがあることも伝える必要がある。 |
| 委員 | 以前、絆の北側緑地に講師や子供たちと一緒に探検に行ったが、貴重な植物や生き物がいた。それらを写真付きで示すとよいのではないか。 |
| 委員 | 増進活動促進法では、認定されると活動の一部に補助が出る。子供たちを含めた環境を維持する活動も可能である。 |
| 委員 | 貴重な自然や保全する活動があれば、東海村の方々も興味を持って取り組めるのではないか。 |
| 委員 | 計画内でうまく表現していただきたい。 |
| 委員 | 循環型社会に関して、リチウム電池の回収はどこに含まれるのか。 |
| 事務局 | 清掃センターに直接持ち込んでいただくなど、危険物のため、他のものと分けて取り扱っている。 |
| 委員 | 若者が自分から情報を取り入れて、分別してくれるのであればよい。 |
| 委員 | 駅や学校など、行動パターンにあったところで回収できるとよい。計画内に書いてもよい。 |
| 委員 | 今までの電池とは別であることを示すべきである。 |

| | |
|-----|--|
| 事務局 | 周知の仕方、回収の場所も含めて検討している。 |
| 委員 | 3-1に関して、サーキュラーエコノミーを含めたタイトルとしているが、3-3の内容が適しているのではないか。 |
| 委員 | 3-3のところにサーキュラーエコノミーのタイトルを移し、3-1は「暮らし方の意識醸成」など新たなタイトルを付けた方が良い。リチウムイオン電池の内容は3-3に書いていただきたい。 |
| 委員 | p.64の環境学習の体験について、2022年の参加人数が2,000人程度である。現行計画では目標を1万人にしており、目標が高いと達していない印象が強い。今後、人数のカウントの仕方を変えるのか。 |
| 事務局 | 現行計画の評価の際、他にも拾える数値があるのではないかと指摘をいただき、様々な数値を拾った結果である。現行計画策定時に目標を1,000人にしたが、目標人数を増やした方が良いという指摘があり、1万人にしたため、目標値の根拠はない。 |
| 委員 | 東海中学校のボランティアや、久慈川のクリーン作戦等を入れると増えるのではないか。 |
| 委員 | 各事業に参加している人数をカウントしたほうがよいのではないか。 |
| 委員 | クリーン作戦はカウントしているのか。 |
| 事務局 | 対象となる事業や数値を調べ、改めて目標値を設定する。 |
| 委員 | クリーン作戦の実施だけでなく、参加した子供たちに環境に関する冊子を教材として配布し、東海村の取組について説明していただきたい。 |
| 委員 | 私の地域では、年に3回クリーン作戦がある。1回で50人程度参加するため、延べ150人いる。ボランティアは盛んである。 |
| 委員 | 自治会主導だけでなく、教育委員会を含め、「子供と一緒にクリーン作戦をしよう」などのキャッチフレーズがあるとよい。 |
| 委員 | 「協働と参画」の中に単純な指標だけでなく、「村内の環境活動に全世代の参画を促すような工夫を行う」という観点で記載し、その上での目標値を設定してほしい。 |
| 委員 | エンジョイサマースクールの参加人数が26人だが、どのようにカウントしているのか。 |
| 事務局 | 環境学習に参加した子供のみをカウントしている。 |
| 委員 | 前回審議会の振り返りにあった補助金の話はどうなっているか。EVと太陽光、蓄電池をセットにすると一定の補助を出すなど、取組を推進するために予算措置を伴う施策をどこまで書き込むのか。可能であれば、少し書き込んでいただいた方がよい。 |
| 事務局 | 現状、個別に補助制度がある。制度の改定、改善は今後検討していくが、例えば、脱炭素に関する補助金を支給します、支援します、程度の書きぶりであれば可能である。 |

| | |
|-----|--|
| 委員 | 取組を支援する内容は記載すべきである。 |
| 事務局 | 施策の方向性として、更に下側にある補助制度を想定していて決定しているが、その補助制度を見えるようにする。 |
| 委員 | 現行計画の策定時、事業者に協力依頼はしたのか。 |
| 事務局 | していない。村 HP で公開したのみである。 |
| 委員 | 産業部局からどのような支援をしているのか。 |
| 事務局 | エコ事業所に対して補助を出すという取組はしている。 |
| 委員 | 補助を出しているのであれば、計画内で記載してもよいのではないか。 |
| 委員 | 第4次計画ができた場合、事業者に協力依頼をしないといけないのではないか。事業者の協力が無いと目標を達成できないと考える。第4次計画を作成したので、是非ともご協力をしていただきたいということを説明する機会があるとよい。 |
| 委員 | 環境部門から積極的に働き掛けてほしい。事業者に対する働きかけを行うという観点も計画内に記載すべきである。事業者を呼んだり、商工会で説明したりしてもよいのではないか。 |
| 委員 | 現行計画は村民に周知したのか。 |
| 事務局 | 計画を策定したというHPでの公開・周知を実施している。 |
| 委員 | 村民や事業者にメリットができるような工夫がほしい。活動すると1ポイント付与など。 |
| 委員 | 少しでもメリットがあるとよい。 |
| 委員 | 「事業者・村民に取組を実施していただくための、経済的な便益が与えられるような仕組みを検討する」程度の記載があるとよい。 |
| 委員 | 計画は冊子を作成するのか。 |
| 事務局 | 一定数は作成するが、一般配布を目的としていない。 |
| 委員 | 「村民に第4次環境基本計画を知っていただく取組をする」という内容を記載すべきである。 また、「協働と参画」のところに可能であれば、「環境に関する行動を起こすための仕組みを中学生・高校生に考えてもらう取組を行う」なども入れてほしい。 |
| 委員 | 目標を実現するため、細かい取組を考えたうえで、施策を検討していただきたい。 |
| 委員 | 具体的に補助金が出てくると参画しやすい。リチウムの分別もポイントになる等、最終的に取り組めるとよい。 |
| 委員 | 計画に書ける範囲で構わないので、成果に導けるような内容としてほしい。 |
| 委員 | とうかい環境村民会議に所属しているが、第2次環境基本計画は我々も参画して作り上げた。その時は70人規模の人が参画し、環境基本計画を全 |

| | |
|--------|---|
| | <p>員が知っていた。一方、現行計画の策定に我々は参加しなかったため、内容を知らなかった。第4次計画もこのままでは同じ状況となる。</p> <p>活動して10年以上経つが、世の中の状況が変化し、環境に関心がある人も増えている。若い人は無関心であるが、無関係ではいられない。若者にいかに周知するか、浸透させるような工夫が必要である。ポイントをつけるでもよいので、環境への取組を推進する状況を作り上げる必要がある。</p> |
| 委員 | 策定したものを周知していただき、広く様々な分野、層の方に広めていただきたい。 |
| 委員 | 計画にカタカナが多い。年齢が上の方々が理解できるか不安である。 |
| 委員 | 新しい内容はコラム等として入れていただきたい。 |
| 委員 | 周知するためには、計画をまとめてわかりやすくした簡易版を出していただきたい。 |
| 委員 | 広報に環境部門のページはあるのか。 |
| 事務局 | 今は無いが、特集ページを作成することは可能である。また、計画概要版も作成し、様々な形での周知を検討する。 |
| 委員 | 毎回の広報で環境部門の内容を常時発信してもよいのではないかな。 |
| 委員 | 温暖化が進み、環境に関する協力の意識が芽生えている。 |
| 委員 | 若い人は環境への意識が高い。その人たちに参画してもらえるように進めていただきたい。 |
| 委員 | <p>※閉会后</p> <p>村内の PFAS や PFOS の状況把握や対策等の取組を記載すべきと考える。</p> |
| 6. その他 | |
| 委員 | リチウム電池の分別の周知を回覧などで徹底してほしい。 |
| 委員 | リチウムイオン電池に対して、何に使用されているかも含めて周知していただきたい。(他自治体では) 清掃センターで火災が起きていることも含めて。危険なものであることも含めて周知してほしい、 |
| 事務局 | 様々な手段を活用して周知する。 |
| 委員 | ごみを収集しているが、火災にあうことに直面している。潰すと火が出ることもあり、ぜひお願いしたい。 |
| 事務局 | 現場の方の命にかかわることなので、周知を進めていく。 |
| 7. 閉会 | |

■環境審議会の様子

